

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

第23回 総会 報告

平成9年3月27日、兵庫県立尼崎病院講堂において平成8年度の近畿病院図書室協議会第23回総会を開催した。当日は出席会員27機関、委任状の提出50会員で開催され、午後1時からの牧野尚彦会長の開会挨拶の後、議長に中嶋和子、副議長に重富久代、書記に笠原廣子の各氏を選出し議案審議に入った。

議案7題はそれぞれ満場一致で可決され、また、次年度の会長と事務局長には、それぞれ役員会で選出された牧野尚彦兵庫県立尼崎病院長と小田中徹也国立京都病院図書室司書が再選された。総会終了後の午後4時からは講師に中村秀穂氏(医学書院常務取締役)を招き、「医学書の企画から出版まで」と題する総会特別講演を開いた。出版事業の経済的背景から医学や保健分野への動向分析、著作権の問題など、興味深い話題が出版者の立場から紹介された。日頃馴染み深い医学書の出版されてくる背景について深く知る機会となった。

議案日程

- 議案Ⅰ 平成8年度活動報告
- 議案Ⅱ 平成8年度会計・監査報告
- 議案Ⅲ 平成9年度活動方針
- 議案Ⅳ 平成9年度事業計画
- 議案Ⅴ 平成9年度予算
- 議案Ⅵ 役員改選
～ 小憩 ～
- 議案Ⅶ 次年度会長・事務局長承認

議案Ⅰ 平成8年度活動報告

はじめに

当協議会は、1995年1月の阪神・淡路大震災で多くの会員が未曾有の災害を被ったが、1996年に入ると復旧も一段落し、図書館機能もほぼ回復した。この間、情報をとりまく環境はマルチメディアやインターネットに代表されるように大きく急速な変貌を遂げている。特に、インターネットについては図書館関係者は積極的に利用することが期待され、当協議会では10月末、WWW上にホームページを開設した。

事業活動の中では、病院図書室が時代の新しい情報ニーズに積極的に対応するため、研修会の企画においてコンピュータ関連を多く扱った。すなわち、第80回研修会では「エンドユーザー・コンピューティング・セミナー」を、また、第81回研修会では「インターネットによる文献の検索と入手」をそれ

ぞれテーマとして、新しい動向を見た。

一方、会誌『病院図書室』（季刊）では「患者の権利と医学情報の提供 - 病院図書室の果たす役割」16巻2号、「病院図書館員の専門性」16巻4号をそれぞれ特集し、病院図書室の固有の問題点を掘り下げた。また研修会と連動して、医学雑誌の効率的な管理(16巻1号)や、会員からの事例報告集(16巻3号)など、日常業務の検証もおこなった。

また、会員の医学雑誌の所蔵目録の作成については今年度から新たに目録編集部を設けて現行所在版と総合目録の発行にあたることにした。今年度は現行版を発行したが、来年度には総合目録を発行するため、現在、準備作業を進めている。このほか、年次統計調査については調査項目の内容を見直し、サービスの側面を重視して実施した。

さらに、病院図書室研究会が新体制になったのを機会に、6月に名古屋市で9月には京都市において懇談会をもった。そこで、日本における病院図書室の全般的な向上を共に図るため、今後、新しい協力事業の実施や人的交流を深めていくことにした。

その一環として、医療研修推進財団が秋から準備を進めている“Virtual Medical Library”の企画へも提携して協力することになった。

I-1 各事業部報告

I-1-1. 研修部

[第5回勉強会]

日時：1996年6月6日（木）13:30～16:30

場所：京都南病院

会費：500円

テーマ：雑誌所蔵目録のつくりかた - データの収集と管理 -

相互貸借のルールとマナー

講師：研修部

参加者：21名（うち研修部5名）

[第79回研修会]

日時：1996年7月17日（水）10:00～16:15

場所：兵庫県立尼崎病院

会費：会員 1,000円 非会員 1,500円

プログラム

1. 病院図書室日常業務の検証

講師 徳田雅子

（大阪府立母子保健総合医療センター）

2. 図書館司書の役割と専門性 - 公共図書館より -

講師 三苦正勝

3. [コ・メディカルスタッフについて]

臨床工学技士

講師 澤竹正浩

（大阪府立母子保健総合医療センター）

参加者：23名（うち非会員3名）

[第80回研修会]

日時：1996年9月25日（水）10:00～17:00

場所：紀伊國屋書店オンライン・セミナー室

会費：会員 1,000円 非会員 1,500円

プログラム

1. パソコンのABC

講師 小田中徹也(国立京都病院)

2. マルチメディア - 電子出版やソフトウェアの紹介と使用体験 -

講師 貴志秀人(株)紀伊國屋書店

3. パソコン通信 - 加入・接続から利用まで -

講師 湯浅智之(株)サンメディア

4. インターネット - 接続から利用まで

WWWとe-mailを中心に -

講師 立道 勉(株)サンメディア

参加者：30名（うち非会員2名）

[施設見学会]

日時：1996年11月20日（水）

場所：(株)ナカバヤシ兵庫工場

兵庫県養父郡大屋町

参加者：14名（うち非会員2名）

[第81回研修会]

日時：1996年12月17日（火）10:00～17:00

場所：科学技術振興事業団大阪支所

会費：会員 1,000円 非会員 1,500円

プログラム

1. 書誌事項の確認と所在確認－効率のよい相互貸借のために－
講師 徳田雅子
(大阪府立母子保健総合医療センター)
2. 各病院図書室における医学雑誌所在目録の作成方法について
講師 山室真知子 (京都南病院)
3. Internet Greatful Med の紹介
講師 福島 勲
(科学技術振興事業団)
4. 医療研修推進財団の取り組み
－医療情報検索システムの紹介－
講師 種村一郎
杉本満信
(医療研修推進財団)

参加者：50名（うち非会員15名）

[第82回研修会]

日時：1997年3月27日（木）10:00～12:00

場所：兵庫県立尼崎病院

会費：500円

プログラム [事例・研究報告会]

1. 移転後10年を経過しての現状と問題点
－診療録管理室との兼務での実情－
林伴子 (社会保険神戸中央病院)
2. 新病院開院に伴う図書室新設から半年を経過して
田中典子 (市立堺病院)
3. 労災病院図書室ネットワークの第一歩
－雑誌目録の作成①－
井川美幸 (神戸労災病院)
4. 学会教育施設の図書室規定について－
アンケート結果を中心に－
田中文子 (済生会兵庫県病院)
5. 相互貸借における文献所在調査結果報告
山室真知子 (京都南病院)

参加者：30名

今年度は4回の研修会、並びに勉強会、施設見学会を各1回行った。

勉強会は前年度と同様、新任担当者向けの内容で雑誌所蔵目録作成の方法を中心に行った。

研修会の今年度のテーマは、研修部で検討を加えた結果、もう一度図書室業務を見直そうということになった。そこで、第79回研修会では日常業務の検証と図書室職員の専門性を考えることにして企画した。しかし、ニューメディアに対する知識獲得の声も聞かれたため、第80回、81回研修会ではコンピュータ利用を目的とした研修内容となった。研修部としては年間を通して一貫したテーマに沿った研修会を開きたいと以前より考えていたが、今年度は見送ることにした。

とはいえ、図書室業務にとってコンピュータは必要不可欠になってきている。最近ではインターネットの利用も徐々になされてきた。第80回、81回研修会は時宜にかなったものといえよう。特に、第81回研修会ではインターネットを使った Virtual Medical Library (VML)の紹介があったため、加入を予定している会員外の参加者が多かった。

事例・研究報告会では例年演題集めに苦慮しているのが実情である。今年度からの試みとして、年度初めにテーマを決め、それについての研究報告を行った。今回は初めてのことであり、研修部で担当した。

年間を通しての研修部事業の評価としては、新規の参加者の増加があげられる。全ての研修会に参加することは難しくても、いずれかに出席する事によって何かしら得られるものがあると考えられる。

今年度は担当者の都合により研修会のビデオ収録はできなかった。資料は保管しているので、必要な方は研修部に問い合わせ頂きたい。

今年度は研修部員として、大阪府立母子保

健総合医療センターの徳田雅子氏と大阪労災病院の上川菜々子氏の協力を得た。

年度当初に検討し計画したことが、結果として実を結べなかった面もあったが、多方面からの協力を得て年4回の研修会を開催できた。研修部としての企画力不足を反省するとともに、感謝を表したい。

次年度はまた、新たな研修部体制で臨む事になるが、会員数も増え、担当者が交代した施設も多くなってきたので、地域に根ざした研修活動や、経験年数を越えた幅広い支持をうけることの出来るような研修会など、いろいろな方法を検討し、よりよい研修活動を目指してゆきたい。

I-1-2. 編集部

今年度は16巻1号～4号を発行した。主な特殊記事は、

- 1号「効率のよい雑誌管理（第77回研修会）」
- 2号「患者の権利と医療情報の提供—病院図書室の果たすべき役割」
- 3号「第78回研修会事例研究報告」
- 4号「病院図書館員の専門性と役割」

であった。総ページ数は157ページとなった。

今年度を総括すると、前進面として、①編集方針に基づいた誌面を追求することができた。[96年度編集方針：病院図書室に根ざして図書館員に身近な記事作りをめざす中で、新たに病院図書室のあり方についても模索していく] ②購読部数の拡大に取り組み、22部増となった。

また、今後の課題として①発行の大幅な遅れ②編集体制の確立があげられる。

1. 各号の発行日、頁数、発行部数

16巻1号	H8. 5. 11,	300部
16巻2号	H8. 8. 2,	300部
16巻3号	H8. 11. 29,	300部
16巻4号	H9. 2. 21,	300部

2. 発行経費

会誌16巻1号～4号に要した費用は、1,312,770円。予算1,300,000円に対して12,720円の赤字となった。

3. 広告収入

[年間契約]

厚生社 (B6)	16(2)-17(1)	20,000円
サンメディア (裏表紙)	16(3)-17(2)	80,000円
ナカバヤシ (B5)	16(2)-17(1)	40,000円
ベルブック (B5)	16(1)-16(4)	40,000円

[単発契約]

ユサコ (B5)	16(1)	12,000円
----------	-------	---------

合計 192,000円

4. 編集体制

年間4号の発行は、かなりの実務量となり、部員個々の負担が増大し、このことは発行の遅れにも大きく影響している。これらを解消するために、昨年度は部員を2グループに分け、各グループで2号ずつ担当し発行することにし作業にあっていたが、後半、部員個々の日常業務の増大などの原因で維持できず、部員全員で手分けをして発行することになった。

新年度は、新たに部員も増員して、2グループ制で編集スタイルを確立することが必要である。そのために、企画の年間計画の早期立案、作業の合理化（パソコン通信の活用など）を追求していく必要がある。

編集会議は今年度2回、開催日程等は、下記の通りである。

H8. 7. 9	三菱京都病院
H9. 2. 6	西淀病院

5. 編集方針

今年度の編集方針は「96年度編集方針：病院図書室に根ざして図書館員に身近な記事作りをめざす中で、新たに病院図書室のあり方についても模索していく（具体的には、病院図書室がおこなう患者サービスや図書館員の

専門性)」であった。2号4号では、具体的に編集方針に基づき特集記事を企画することができた。

来年度の編集方針は、「病院図書室に根ざして図書館員に身近な記事作りをめざす中で、今後、図書館業務に必要とされるニューメディアの媒体の紹介、具体的事例など取り上げる。同時に図書館員の役割や専門性についても引き続き掲載していく」ことにする。

また、17巻1号から目次の英文を掲載し、協議会のホームページ上でも紹介していく。

6. 購読会員の拡大

これまでは、あまり拡大にむけての積極的な取り組みはおこなって来なかったが、今年度は、パンフレットを作成し、日本医学図書館協会加盟の近畿地区以外の図書館に購読を呼びかけをおこなった。

また、これまで寄贈していた日本図書館協会の近畿地区の加盟館にも寄贈から購読への変更の協力を依頼した。

その結果22部（11部新規購読，11部寄贈から購読会員へ）の拡大となった。

7. 今後の課題

今後の課題は、これまでも述べてきたが、特に下記の2点に重点をおいて取り組んでいきたい。

1) 企画の早期立案，編集体制の確立，年4回の発行を内容面の充実とともに遅れのないように発行するために、増員も含めて2つのグループにわけ、それぞれ2誌ずつ発行できるような編集体制を確立したい。また、企画の早期立案をおこない任務を分担して作業をすすめていく。

2) 電子情報時代にむけて病院図書室に求められる役割について模索する。その媒体や事例などを掲載し、また、その中で図書館員の役割や専門性について模索していく。

I-1-3 統計調査部

【重複雑誌目録の発行】

- a. 調査対象：1995年1-12月発行の重複雑誌
- b. 作業経過：1995.7.16 調査用紙発送 (107施設)
1995.8.19 回答締切
1995.10.31 目録発送 (108施設)
- c. 参加施設：29施設 (参加率27%)
- d. タイトル数：201誌
(国内76種 外国125種)
- e. 印刷費：1,000円 (110部)

【図書室統計調査報告書の発行】

- a. 調査対象期間：平成7年度(1995年4月～1996年3月)
- b. 調査項目：図書室管理機能，サービス機能，統計
- c. 作業経過：1995.7.16 調査用紙を発送 (107施設)
1995.8.19 回答締切日
1995.10.31 報告書の発送 (108施設)
- d. 回答施設：89施設 (回収率83%)
- e. 印刷費：7,000円 (110部)
- f. 文献の相互利用 (協議会全体の件数)

-受付-

協議会加盟施設	12,637件(82%)
協議会加盟外	1,940件(13%)
その他, 不明	760件(5%)

合計 15,337件

-申込-

協議会会員施設	13,012件(34%)
上記以外の病院	1,523件(4%)
大学図書館	13,883件(37%)
文献手配業者	8,378件(22%)
その他, 不明	1,044件(3%)

合計 37,840件

【経費】印刷費：8,000円 郵送費：29,870円

今回、調査形式を大幅に変更した。今後も図書室の機能的側面を重視した調査を検討してゆきたく、皆様のご意見をお聞かせ下さい。

I-1-4 目録編集部

協議会会員の「現行雑誌所在目録1996」と「医学雑誌総合目録・改訂版」の作成のために、従来の目録編集委員会を目録編集部として再出発させた。会員の増加もあり委員のみでは早期に発行は困難と考え、今年度第1回幹事会において目録作成の一部を外注することが決定した。なお「現行雑誌目録」は今後毎年の発行とするが、「医学雑誌総合目録」改訂版発行の年は、その年度の所蔵は総合目録にふくめ、「現行」は発行しないことになった。

「現行雑誌所在目録1996」の発行

第1回幹事会において「現行雑誌所在目録1996」の発行が決定し5月初旬に各会員に、1996年の国内・国外雑誌の所蔵タイトル目録提出依頼を行った。この目録は文献の相互貸借のための資料とし、各会員の事情により相互貸借業務を行っていない機関の所蔵データは除外した。この目録は7月に完成し、全会員に配布した。外注による経費は257,500円であったが、次年度からの作成には基礎データが利用出来るので作成経費は軽減される。

「医学雑誌総合目録 改訂版」の作成準備

長い間の懸案事項であった「医学雑誌総合目録改訂版（国内雑誌・国外雑誌）」の作成の実現に向けて11月よりその準備を開始し、第81回研修会においてそのあらましを説明した。各会員機関において所蔵データが作成しやすい方法を考慮して準備期間に日時をかけたため、データ提出依頼は3月初旬となった。また、VML（Virtual Medical Library）システムの参加会員には、二重の負担とならぬように医療研修推進財団への提出データと総合雑誌目録のためのデータをリンクさせることにした。目録の完成は7月下旬から8月

初旬の予定である。

I-2 組織活動

I-2-1 幹事会

今年度は、幹事の負担を減らすため従来の定例6回の幹事会を4回にして開催し会の運営にあたった。以下、主議題のうち各事業の報告事項については省略した。

日程	会場／主議題
① 4月26日	淀川キリスト教病院 幹事役割分担、事業企画
② 7月11日	尼崎市立産業郷土会館 L-palシステム、対外協力活動
③ 10月17日	国立京都病院 VML、総合目録、ホームページ
④ 1月16日	淀川キリスト教病院 年度末の総括と準備

I-2-2 役員会

平成9年2月27日、兵庫県立尼崎病院において平成8年度の役員会を開催した。新会長のもと今年度の事業活動の報告と来年度の活動方針、事業計画、予算の各案を審議した。この中で、共同事業関連と総合目録の作成費については特に検討を重ねた結果、事務局案が承認された。また、平成9年度の会長には牧野尚彦兵庫県立尼崎病院院長が、事務局長には小田中徹也国立京都病院図書室司書がそれぞれ再選され、総会に諮ることにした。

I-2-3 会員の状況

会員数：109機関

(近畿外；33機関、病院外；8機関)

異動：

入会：名古屋徳州会病院、日本赤十字社和歌山医療センター、滋賀医療技術専門学校、豊橋市民病院、京都民医連中央病院

退会：神戸徳州会病院

I-2-4 対外交流

近畿地区医学図書館協議会の例会では、第66回例会(06/21 大阪医科大学図書館)へは幹事の山崎捷子と松本純子が出席した。第67回例会(10/08 大阪大学附属図書館生命科学分館)には事務局の小田中徹也と会員の松原康子が出席した。当地区協議会では、昨年に引き続き第2回シンポジウム(11/29 大阪市立大学学術情報総合センター)を開催した。当協議会からもその実行委員として企画担当幹事的首藤佳子が加わり、当日は会員から9名の参加があった。

日本医学図書館協会の第67回総会(96/05/21-22 神戸国際会議場)へは事務局長の小田中徹也と幹事の林伴子がオブザーバーとして出席し、関係者との交流を深めた。

また、今年度の日本病院会第19回全国図書室研究会(10/03,04横浜)の後援名義の使用については例年どおり協力した。また秋に、医療研修推進財団が病院図書室の文献流通においてインターネットを利用するシステム(VML)を企画したことから、これに協力することになった。

医療研修推進財団の運用による当システムは、文献相互貸借に利用することを目的としてインターネット上に作成される病院図書室所蔵の医学雑誌目録のデータベースであり、平成9年4月からの本運用が予定されている。当協議会では、立ち上げ時におけるVML参加会員の所蔵データの取りまとめと、本運用に入るまでのシステム開発面で協力をしている。なお、平成8年11月中旬、当システムへの会員の参加意向を把握するため各会員へアンケート調査を実施した。その結果、参加希望の12会員(一部他団体と重複)のうち、9会員が参加することになった。ちなみに未定は14会員、不参加は15会員あり、これらのうちインターネットを利用できる会員は15会員であった。

病院図書室研究会との交流では、「はじめに」でも述べたように今年度は懇談会や非公式の場で数回にわたり話し合いの機会を持ち、

今後の協力・共同事業のあり方を探った。その中で、日本における病院図書室および図書館員の向上のために協力していくことで認識が一致した。

I-2-5 論文・学会活動

[論文]

- (1) 山室真知子(京都南病院)
患者さんとその家族のための医学書(2)
全国患者図書サービス連絡会会報
3(1,2),20,1996
- (2) 山室真知子(京都南病院)
患者さんとその家族のための医学書(3)
全国患者図書サービス連絡会会報
3(3,4),45,1997
- (3) 小田中徹也(国立京都病院)
館種別図書館概況「病院図書室」:近畿病院図書室協議会 図書館年鑑1996年版 p.93-94 日本図書館協会
- (4) 小田中徹也(国立京都病院)
特集:阪神・淡路大震災と図書室「図書館関係団体の復旧活動」:近畿病院図書室協議会 図書館年鑑1996年版 p.274-275 日本図書館協会

議案Ⅱ 平成8年度近畿病院図書室協議会会計報告・監査報告

(次頁)

議案Ⅲ 平成9年度活動方針

高度化と専門化かつ患者中心主義に移行している医療の場で、情報を提供する病院図書室の果たすべき役割は高まり期待もされている。しかしながら、病院図書室の環境とくに人員についてはこれに比例して向上せず、一部ではむしろ悪化の傾向がみられる。一方この1、2年、情報テクノロジーはパソコン・ブームやインターネットに見られるように急

議案Ⅱ 平成8年度近畿病院図書室協議会会計報告

(収入の部)

単位=円

費 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
前年度繰越金	<u>1,489,098</u>	<u>1,489,098</u>	
会 費	<u>2,180,000</u>	<u>2,260,000</u>	H5×1 = 20,000 H6×1 = 20,000 H7×1 = 20,000 H8×107=2,140,000 入会金×6=60,000
事業収入	<u>401,500</u>	<u>557,700</u>	
会誌購読会費	(294,000)	(396,000)	H7×2 = 12,000 H8×64 = 384,000
研修会費	(107,500)	(130,500)	第78-81回研修会参加費 第5回勉強会参加費
そ の 他	—	(31,200)	会誌バックナンバー・現行 雑誌所在目録売上
広告掲載料	<u>180,000</u>	<u>112,000</u>	ユサコ, 厚生社, ナカバヤシ, ベルブック
そ の 他	—	<u>1,773</u>	銀行利息
合 計	<u>4,250,598</u>	<u>4,420,571</u>	

(支出の部)

単位=円

費 目	予算額	決算額	差引増△減	摘 要
総 会 費	<u>85,000</u>	<u>85,970</u>	<u>△ 970</u>	選挙・議案書費用 特別講演謝礼・交 通費
事 務 費	<u>100,000</u>	<u>66,999</u>	<u>33,001</u>	フィルム代, 現像料, 封筒印刷代, 他
通 信 費	<u>120,000</u>	<u>97,350</u>	<u>22,650</u>	事務局, 各部会連 絡, 会員宛通信費
交 通 費	<u>500,000</u>	<u>369,630</u>	<u>130,370</u>	幹事会, 各部会 その他
事 業 費	<u>2,100,000</u>	<u>1,968,297</u>	<u>131,703</u>	
会誌発行費	(1,300,000)	(1,312,770)	(△12,770)	会誌16(1)-(4) 印刷費, 発送費
研修会費	(300,000)	(312,397)	(△12,397)	第78-81回研修会 第5回勉強会, 見 学会
総合目録改版 準備費	(100,000)	(0)	(100,000)	
その他の事業	(400,000)	(343,130)	(56,870)	現行雑誌所在目録 重複雑誌・年次統 計作成費, 発送費
資 料 費	<u>150,000</u>	<u>39,140</u>	<u>110,860</u>	Union Catalog94
予 備 費	<u>1,000,000</u>	<u>98,045</u>	<u>901,955</u>	資料移転費
雑 費	<u>195,598</u>	<u>92,463</u>	<u>103,135</u>	JMLA総会参加費, 祝電, 他
合 計	<u>4,250,598</u>	<u>2,817,894</u>	<u>1,432,704</u>	

思われるが、来年度の発行を是非とも実現する。さらに、秋に開設した当協議会ホームページは幸い好評を得たので、広報と情報提供の場としてより内容を豊かにするために適切なサーバーを確保し、充実発展させたい。

ところで、日本における病院図書室やそこに働く図書館員の全般的な向上には、当協議会だけでなく全国的な規模で考え取り組む必要がある。そのため、病院図書室研究会とは協力してこの課題に当たっていききたい。さしあたり、病院図書室が現在取り組むべき火急の情報テクノロジーであるインターネットと、病院図書館員の専門性を具現化する意味での認定制度の有効性について共同プロジェクトを組むことがと考えられる。

さらに、日本医学図書館協会をはじめとする医学図書館とも従来どおり交流を深めるとともに、各地区の関連団体あるいは関連機関とも協力して医学情報の流通発展に寄与していきたい。

議案Ⅳ 平成9年度事業計画

1. 医学文献情報活動の推進
「医学雑誌総合目録」改訂版の発行
2. 教育研修活動の継続
定例研修会・勉強会の開催
集中講習会の開催
諸研究研修会への案内と参加奨励
3. 出版広報活動の継続
会誌『病院図書室』の季刊発行
ホームページ・サーバーの確保と内容更新
4. 年次統計等の調査活動
年次統計と相互貸借の調査、重複雑誌目録の作成
5. 共同事業の実施

インターネットおよび図書館員認定制度の調査研究

議案Ⅴ 平成9年度予算

(次頁)

議案Ⅵ 役員改選

選挙管理委員より平成9年度役員改選が行われ、幹事7名と会計監査2名が選出された。新役員は以下の通りである。

◎幹事

木下久美子（高山赤十字病院）
首藤 佳子（星ヶ丘厚生年金病院）
田中 文子（済生会兵庫県病院）
前田 元也（西淀病院）
松本 純子（住友病院）
山崎 捷子（淀川キリスト教病院）
山室真知子（京都南病院）

◎会計監査

吉田美知子（京都桂病院）
亀井真由美（阪和記念会館）

議案Ⅶ 会長・事務局長承認

会長は牧野尚彦氏（県立尼崎病院院長）、事務局長には小田中徹也氏（国立京都病院司書）がそれぞれ承認された。

以上をもって第23回総会を閉会した。

議案V 平成9年度予算

(収入の部)

(支出の部)

単位=円

費 目	金 額	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	1,602,677	総 会 費	100,000	選挙費用, 議案書費用, 特別講演謝礼, 交通費
会 費 平成9年度	2,160,000 @20,000×108	事 務 費	100,000	封筒印刷, 年賀状印刷, 他
事業収入	1,063,000	通 信 費	120,000	事務局・各代会連絡, 会員通知用
会誌購読会費 平成9年度	(408,000) @ 6,000× 65	交 通 費	500,000	役員会, 幹事会, 各代会, JMLA近畿地区例会, 他
平成8年度未納	@ 6,000× 3	事業費	3,220,000	
研 修 会 費	(115,000)	会誌発行費	(1,400,000)	会誌17巻1-4号印刷, 送料, 執筆料
定例研修会	@1,000×30×3	研 修 会 費	(350,000)	定例研修会3回, 事例報告会, 勉強会
事例報告会	@ 500×35	総合目録	(1,070,000)	雑誌総合目録改版(国内・外国編)
勉強会	@ 500×15	その他の事業	(400,000)	年次統計報告H8年重複雑誌目録H9年インターネット関連費
雑誌総合目録	(540,000)	資 料 費	150,000	医学洋書総合目録他,
そ の 他		予 備 費	600,000	
そ の 他 広告掲載料	180,000	雑 費	215,677	慶弔費, 接遇費, 他
合 計	5,005,677	合 計	5,005,677	